

平成30年度 当初予算（案）

主な事業の説明書

市立大曲病院

.....目

次.....

款 項 目 大事業

ページ

市立大曲病院事業

11 - 1

事業説明書

款 項 目 事業

(施策の大綱) 保健・医療の充実

(施策) 地域医療体制の充実

(基本事業) 医療機能の強化

継続

課所名：市立大曲病院 管理課

『事業名』 市立大曲病院事業

収益的収支	【30年度】	876,312 千円	【29年度】	903,835 千円	【増減額】	△ 27,523 千円
資本的収支	【30年度】	100,784 千円	【29年度】	110,317 千円	【増減額】	△ 9,533 千円

※30年度事業費の財源内訳（上段：収益的収支、下段：資本的収支）

国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
			635,469	240,843
			51,098	49,686

「その他」：上段、医業収益。下段、過年度損益勘定留保資金。

1. Plan（計画：事業の目的及び目標）

地域住民のこころの健康保持のため、精神科医療を提供する。

診療科目：精神科、神経科、（内科）

病床数：120床（一般精神病棟70床、認知症病棟50床）

○目標：	入院 38,325人（1日当たり105人）	一般精神病棟 23,725人（1日当たり65人）	認知症病棟 14,600人（1日当たり40人）
	外来 14,728人（1日当たり60人）	外来 14,152人（1日当たり58人、244日）	訪問看護 576人（1月平均48人）

2. Do（実行：これまでの実績と成果）

開設以来、大仙市及びその周辺地域の住民に精神医療を提供する公立病院として、住民生活を支えている。平成22年度からは常勤医4名体制となり、26年4月からは外来薬剤を院外処方とするなど、機能の充実と合理化に努めている。

3. Check（評価：問題と課題）

- ・医療制度面では、「入院医療中心から地域生活中心へ」、「治す医療から治し支援する医療へ」と医療施策が転換している。また、地域の高齢化に伴い認知症への医療需要が増加すると同時に、人口減少に伴い患者数の遡減も見込まれる。制度の改正に適合した医療サービスの提供と病棟の有効活用が課題となる。
- ・施設設備面では、平成8年12月の開設から20年以上経過し、修繕費の増加や設備の更新、病棟を有効活用するための設備の補完などが課題となる。

4. Act（改善：今後の方向性と30年度事業の概要）

地域に必要な病院であり続けるために、地域のニーズと時代に沿った医療の提供に努める。入院医療では、総合病院と介護施設の中間に位置する専門病院として、関係機関と連絡を密にし患者を受け入れる。外来医療では、訪問看護・指導の複数体制での実施などさらなるサービスの向上に努める。

また、地域包括支援センターなど予防や支援を業務とする部門・機関との連携を強め、平成30年度からは認知症初期集中支援事業の中で専門病院として積極的な役割を果たしていくための体制づくりに努める。

【収益的収支予算】	病院事業収益	876,312千円	
	医業収益	629,193千円	（うち入院 550,267千円、外来 75,346千円）
	医業外収益	247,119千円	（うち一般会計負担金 240,843千円）
	病院事業費用	876,312千円	
	医業費用	845,003千円	（うち給与費 575,419千円）
	医業外費用	28,609千円	（うち企業債支払利息 28,184千円）
	特別損失	1,200千円	
	予備費	1,500千円	
	（一般会計負担金のうち、529千円は認知症初期集中支援事業分）		

【資本的収支予算】	資本的収入	49,686千円	（うち一般会計出資金 49,686千円）
	資本的支出	100,784千円	（うち企業債元金償還金 99,371千円）
	（収入が支出に不足する額は、過年度損益勘定留保資金で補てんする。）		